

私が大西さんという方を初めて知ったのは、2017年の基研研究会「熱場の量子論とその応用」に参加した際でした。そのときから様々な研究会で大西さんをお見かけしましたが、個人的には、研究について講演される姿以上に、幅広い分野の発表に対して活発に質問をされる姿のほうが強く印象に残っています。当時学生だった私の視点からは、質問やコメントが非常に物腰柔らかく、ときには素朴な観点から出発して楽しそうに質問を展開されるので、その姿勢にお人柄が滲み出ているのだろうと感じていました。口頭発表の後に挙手される大西さんを見て「どんな質問をされるのだろう？」と楽しみになった記憶があります。

私は、2022年9月から特定研究員として基研原子核グループに加入し、晩年の大西さんとグループで一緒にすることができました。原子核グループではお昼ご飯を一緒に食べる習慣がありましたが、着任当初から移動中の道すがらや食事中にたびたび声をかけてくださり、不慣れな私が馴染めるようにと随所で気にかけてくださいました。新米研究員の私が持っていた不安をこぼした際も、親身になって話を聞き相談に乗ってくださったこともありました。基研に所属して大西さんを傍で見ると、学生の頃に研究会で抱いていた印象を強めるとともに、研究分野の発展やそれに不可欠な課題・観点を提示し、またそこに若手研究者がどう参画できるかまで構想を練ろうとされる姿を目の当たりにし、一研究者としてだけでなくリーダーとしての大西さんに感銘を受けました。

9月着任から大西さんが体調不良でリモートワークに入られた翌春までの期間は本当に僅かでしたが、大西さんの気配りのできる他人思いな側面ととてもお茶目な側面、情熱と客観性のバランスを取ろうと心がける研究姿勢、そして周りを巻き込んで研究分野を盛り上げていこうとされるリーダーシップを身近に肌で感じました。大西さんの死後、大西さんが携わってきた研究課題や過去の論文・発表スライドに触れる機会が増え、その研究の素晴らしさを痛感させられています。基研で一緒にできた期間に大西さんと具体的な研究の議論がもっとできていれば、と思うことが多々あり、とても残念で心残りです。大西さんが我々に示してくれた姿勢を見習い、これまで積み上げてこられた研究をより一層発展させていけるように努力することが、私にできるせめてもの恩返しではないかと感じているところです。

大西さん、本当にお世話になりました。有難うございました。

渡辺 展正（京大基研）